

Chapter 01: 出会い

ある日、福山（フクヤマ）は、都心のとある駅で新幹線に乗るまで時間を潰していた。すると、中学生の大和（ヤマト）とその母親の会話が耳に入ってきた。

母親「あなたからおじいちゃんに引っ越してくるように説得してちょうだいね。」

大和「伝えるけど、おじいちゃんは絶対にうんって言わないと思うよ。」

母親「そうかもしれないけど、あなたが言えば少しは変わるかもしれないからちゃんと伝えてね。」

大和「うん……。」

その後、福山は新幹線に乗り込み、偶然にも大和の隣に座ることになった。

駅を出発して間もなく、大和がうっかりしてお茶をこぼし、福山のズボンに少しばかりかかってしまった。このことがきっかけとなり、二人の会話が始まった。

Chapter 01

【田舎】



さっき偶然耳に入ってきましたが、おじいさんのところへ行くのですか？



はい。
本当だったら、夏休みはいつも家族みんなで
おじいさんのところへ行くんですけど……。



今回は一人で？



今年はお父さんの仕事が忙しくて、時間がないから
僕だけで行くことになりました。



そうでしたか。



おじいちゃんは田舎で一人暮らしをしているんですが、
お母さんに、僕たちの家に引っ越してくるように
おじいちゃんを説得して欲しいと言われてしまって……少し気が重いです。



おじいさんは都会で暮らしたくないと言っているのですか？



田舎の田んぼや畑があるから、それを捨てて行けないと言っています。

会話が弾んでいるうちに、目的の駅に到着した。

偶然にも目的の駅が一緒だったため、福山と大和は二人で改札を出た。

駅の外では大和の祖父厳蔵（ゲンゾウ）が待っていた。



あ！おじいちゃん！



大和、元気だったか？1年で大きくなったな。
……おや、その人は？



初めまして。
偶然、大和さんと新幹線で隣り合わせになった福山と申します。



私は、大和の祖父の厳蔵と申します。
今日はお仕事か何かでお越しですか？



はい。
仕事でこの町の知り合いから呼ばれて来ました。



そうですか。
もしお時間がありましたら、うちの村へお越し下さい。
ちょっとした息抜きになると思います。

Chapter 01

【田舎】